

平成 30・31・令和 2 年度 立川市教育委員会 教育力向上推進モデル校

令和 2 年 12 月 11 日（金）立川市立松中小学校

# 指導案集

## 【研究主題】

**共に学び、共に成長し、自他を尊重してかしこく生きる子どもの育成**

**～交流及び共同学習の確立を目指して～**

今年度、コロナウィルス感染症拡大予防のために、思うように授業の研究を進めることができませんでした。特に、交流及び共同学習に関しては感染症対策とのせめぎ合いの中で取舍選択しながら進める 1 年となってしまいました。しかし松中小学校で進めてきた松中小としての「理解教育」は 3 年目を迎え確実に進歩を遂げていると感じています。

この指導案は、この 2 年間の校内研究で行われた授業です。授業後の振り返りや、反省をふまえ、そのことを加筆修正し作成しました。

内容としては、低学年ブロック、中学年ブロック、高学年ブロック、特別支援教室「キラリ」の教師による出前授業の 4 本の授業の記録です。

それぞれ試行錯誤をしながら授業を作り、その授業のブラッシュアップを行ってきたものです。それぞれのブロックの思いや考えを生かしたものを作ることを意図していますので、形式を整えることはしていませんが、それぞれのよさが生かされたものが完成したと考えています。

この指導案が、授業の選択肢の一つとなることを願っています。

## 低学年ブロック

### 第2学年 学級活動（2） 学習指導案

#### 研究主題

共に学び、共に成長し、自他を尊重してかしこく生きる子どもの育成  
～交流及び共同学習の確立を目指して～

1 題材名『すきな の ど～れ』 内容（2） 日常の生活や学習への適応及び健康安全

#### 2 題材設定の理由

低学年の子どもは自分のことをよく知らない。そういった場面が日常の学校生活のなかではよく見られる。「ぼくは何もできないよ。」と言って何もしない、はじめから諦めてしまう。『本当はこれができるんじゃないの?』という友達の一言で自信をもち第一歩をふみだす勇気をもてる。では、どのあたりまで分かっているのかを確かめるために、私たちは『じぶんアンケート』を作成した。アンケートとエクササイズを交互に行いその効果を見ようとするものである。

今回の題材（エクササイズ）は『四つの窓』\*をもとに選択肢の数を工夫し、自分の好きなものとその理由を述べさせ、また友達の好きな物とその理由を知る活動である。これらの活動を通して、また複数回繰り返すことで個々が受容される場面を増やし、友達の良いところに気付くきっかけとなる。相手のことを知っていく、そして、自分と友達の新たな面の発見を経験させてあげたい。

低学年の段階では、自己理解はなかなか難しい面も多くある。しかし、こうした学習を通し自己理解を深め自己決定ができるようになってもらいたい。そのような思いの基、本題材を設定した。

\*『小学校 人間関係づくり エクササイズ&ワークシート』岡田 弘編著 学事出版より

#### 3 評価規準

学級活動(2) 『日常の生活や学習への適応及び健康安全』

◇第1学年及び第2学年◇

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の身の回りの問題に関心をもち、進んで日常の生活や学習に取り組もうとしている。	学級生活を楽しくするために日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	学級生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。

#### 4 子どもの実態（省略）

学級力アンケート結果から、学級力レーダーチャートを作成し、学級力に関する子どもの実態を分析した。学級力とは、『学び合う仲間としての学級をよりよくするために、子ども達が常に支え合って目標にチャレンジし、友達との豊かな対話を創造して、規律を守り安心できる環境のもとで協調的な関係を創り出そうとする力』のことを指す。

##### 『じぶんアンケート』の項目

- ① すきなことは ありますか。
  - ② とくいなことは ありますか。
  - ③ ともだちは いますか。
  - ④ じぶんのきもちを わかってくれるひとは いますか。
- ある ない わからない

#### 5 題材について

本題材『すきなのだ〜れ』は『じぶん・ともだち見つけタイム』を構成する1つの活動である。

『じぶん・ともだち見つけタイム』は、3つの活動から構成され、その後に『じぶんアンケート』を行う。活動は、①『すきなのだ〜れ』、②『すきなのだ〜れ』、③『すきなのだ〜れ』である。どの活動も自分が好きなものを選ぶもので、①は2択の質問、②は4択の質問、③は質問に対して制限なく自由に答えるものとした。これは自己決定の仕方を徐々に慣れさせ、段階的に難易度を高めスムーズに活動に取り組めるようにした。

教室に選択肢のコーナーを設けて、子どもが自分の選択したものに移動し、互いに理由を伝え合う活動を行う。クラス全員が見ることができるようにカードに名前と理由を書き、そのコーナーに掲示し、その後クラス全員が自由に移動して友だちの内容を確認できるようにした。

#### 6 研究主題にせまる手だて

##### (1) 選択肢の工夫

子どもがどれを選んでも嫌な思いをしないように配慮した。対立をしない内容とし、活動を通して楽しい雰囲気をつくれるようにした。そうすることで安心して自分を出すことができると考えた。

また子どもの生活体験から考えることのできるものとし、それを選んだ理由を積極的に尋ねてみたくなるもの考えた。

##### (2) 『じぶんアンケート』の作成、実施、分析・考察

本題材の活動の妥当性を検証するためのアンケートを作成した。アンケート項目は4つとし、研究テーマへとつながる自己理解、他者理解、交流及び共同学習と対応する形をとった。自己理解の間(①②)、交流へのステップ(③)、他者理解へつながる共感・支え、メタ認知(④)である。

活動の後、1週間ほどの間を設けて実施した。

またグラフ化し、学級ごと学年ごとその推移を分析し考察した。

## 7 指導計画

### 【学級力向上プロジェクト】

『スマイルタイム（学級会）』

『グラフ化による分析（学期に1回、計3回実施）』

### 【生活科】

『こども広場』

『生活科見学』

1年生のことを考えて、遊びを決める。

### 【特別支援教室「キラリ」出前授業】

『キラリってなに？』

『ほめほめジャンケン』

自己理解を促す。

### 【じぶん・ともだち見つけタイム】

『じぶんアンケート①』

『すきなのだッチ』 2学期前半

『じぶんアンケート②』

『すきなのど〜れ』 2学期後半（本時）

『じぶんアンケート③』

『すきなのなーに』 3学期前半

『じぶんアンケート④』 3学期後半

### 【道徳】

『大すき 三くみ』

よりよい学校生活、集団生活の充実

C 主として集団や社会との関わり

に関すること

クラスでの生活を自分たちの力で

楽しくしようとする態度を養う。

### 【道徳】

『ありがとう りょう太さん』

個性の伸長

A 主として自分自身に関すること

自分の特徴に気付いて、よいところ

を大切にしようとする心情を育て

る。

## 8 本時の指導

### (1) 本時の目標

4つの中から、自分が良いと思うものを選び、友達と選んだものと選んだ理由を伝え合う活動を通して、自分と同じ好みや違う好みをもつ友達存在を知り互いの理解を深める。

### (2) 本時の展開

時間	○学習活動と予想される反応 (T: 教師の発問 C: 予想される子どもの反応)	◇指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 5分	1 心ほぐし (ice breaking) めいれいゲーム		
展開 30分	<p>2 めあての確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【めあて】 じぶん、友だちのすきなことを知ろう。 そのりゆうもつたえ、しっかり聞こう。</p> </div> <p>3 学習の約束を確認 T: 始める前に約束をみんなで読みましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【やくそく】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生の話をしっかり聞く。</li> <li>・ふざけないで、なかよくやる。</li> <li>・友だちの考えを大切にする。</li> </ul> </div> <p>4 今日の活動の説明を聞く T: 4つの中から自分が一番『いい』と思うものを選んでください。また、そう決めた理由も書きましょう。</p> <p>5 活動する (3回)</p> <p>1回目…『食べ物』 (カレーライス、ラーメン、おすし、スパゲティ)</p> <p>2回目…『時間』(朝、昼、夕方、夜)</p> <p>3回目…『季節』(春、夏、秋、冬)</p>	<p>・学習の約束を掲示し、活動中も意識できるようにする。</p> <p>・理由の聞き方の話形を掲示する。</p>	

	<p>C: 選択肢の中から一番好きな物を選ぶ その理由をカードに書く。</p> <p>C: 自分の決めたコーナーにカードを持って移動する。</p> <p>C: 近くの友達と交流する。 (互いの決めた理由を言い合う)</p> <p>T: カードを立てかけ、他を選んだ人の理由も知りましょう。</p> <p>C: 他を選んだ人の理由を見てまわる。 3回繰り返す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名前と理由を掲示できるようにする。</li> <li>・教師はグループの状況を見て、ファシリテーターとして行動し、サポートする。</li> <li>・<u>友達に理由を伝えることができない子どもには、カードを見せて伝えてもよいことを助言する。</u></li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名前は事前を書いておく。</li> <li>・カードは立てかけられるよう厚いもので作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな物を1つ決めることができる。</li> <li>・理由を書くことができる。(カード)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と交流することができる。(観察)</li> </ul>
<p>ま と め 10 分</p>	<p>6 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・席に戻る。</li> <li>・振り返りシートに記入する。</li> </ul> <p>1 自分がいいと思うものを選ぶことができたか。</p> <p>2 選んだ理由を友達に伝えることができたか。</p> <p>3 「ああそうだったんだ。」「へえそうなんだ。」と思うことがあったか。 よくできた、できた、あまりできなかった、できなかったから選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の感想を書く。</li> <li>・授業の感想の発表する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてが達成できたか。(振り返りシート)</li> </ul>

### (3) 板書計画

すきなのだ〜れ			
<b>【めあて】</b> じぶん、友だちのすきなことを知ろう。 そのりゆうもつたえ、しっかり聞こう。	春	かんそう	<b>【やくそく】</b> ・先生の話をしっかり聞く。 ・ふざけないで、なかよくやる。 ・友だちの考えを大切にする。
	夏		
	秋		
	冬		
・食べもの ・時間 ・きせつ			

- ・選んだ物やその理由を伝えることができていた。このことから、自分と同じ好みや違う好みをもつ友達存在を知り、互いの理解を深めることができたと思う。
- ・子どもの感想から、「楽しかった。」「またやりたい。」などの肯定的な意見が多くあった。このような機会を意図的に設定することで、自然と交流が生まれ、その中で自己理解・他者理解が育まれていくと考える。
- ・カードに書くことはできるが、友達に伝えることができない子どもがいたので、カードを見せるだけでよいなどの助言があるとよかった。
- ・選ぶ物の人数比が予想できない。実際、『食べ物』の選択肢のうち、『スパゲティ』を選ぶ子どもが極端に少なかった。  
→『焼き肉』に変えると、均等に分散して活動が活発になるのではないかと考え、事後に他のクラスで実施し、改善が見られた。

#### <授業後の子どもの感想>

- ・みんな4個の中で何が好きか分かって、友達はこういうのが好きなんだなあと思いました。みんなが、どれが好きか分かってよかったです。自分はどれが好きかを説明できてよかったです。
- ・自分のことを知れてよかった。
- ・友達と自分のいいものを知れてよかった。まだたくさんやりたかったです。

#### 10 アンケート項目についての検証

##### 『じぶんアンケート』の項目

- ① すきなことは ありますか。
- ② とくいなことは ありますか。
- ③ ともだちは いますか。
- ④ じぶんのきもちを わかってくれるひとは いますか。  
ある ない わからない

①～③については妥当。④については、以下のことについて問題があった。

- ・質問内容が子どもの発達段階において、答えるのが難しい。
- よって、④に代わるものを考えた。 例) 友達のことを知るのは楽しいですか。
- ※④については興味深いデータが取れたので、活かしていきたい。

### 1 1 3 学期実施『すきなのに』

【じぶん・ともだち見つけタイム】  
『じぶんアンケート①』  
『すきなドッチ』 2学期前半  
『じぶんアンケート②』  
『すきなど〜れ』 2学期後半（本時）  
『じぶんアンケート③』  
『すきなのに』 3学期前半  
『じぶんアンケート④』 3学期後半

#### <概要>

『じぶん・ともだち見つけタイム』を構成する活動のうち、3番目の活動である。質問「すきな〇〇はなんですか。」に対して制限なく自由に答えるものとした。これまで2回行ってきた選択肢から選ぶのではなく一人一人が自由に答えるため、友達と理由を共有するグループに分ける必要がある。その際、1人になる子どもがいないように『仲間を広げよう』というめあてを子どもに提示して取り組みを行った。グループ分けは、子どものつぶやきを中心に、教師が先導となって進めた。質問のテーマは、『スポーツ』『ジュース』『お菓子』の3つを設定した。

#### 授業の流れ

- ① すきな〇〇を決めて理由を書く
- ② グループに分ける
- ③ 友達と理由を共有する

授業後：友達の回答や理由を閲覧できるよう、クリアホルダーに入れて掲示する

#### <成果と課題>

- ・共有は、各クラスにおいて色々な方法で試してみた。床に置く方法だと見えない子もいるため、黒板に貼る方法だとみんなが見えてよかった。
- ・この活動以外に、当番活動を決めるなどで、1人になる子を作らないようにする姿が見られた。
- ・3つのテーマ（スポーツ、飲み物、お菓子）のうち、スポーツについては何がスポーツに当たるのか分かりにくかった。例えば、なわとびはスポーツか。おにごっこはスポーツか等。
- ・選択肢がなくなり自由回答になったため、難易度があがった。2年生では可能だったが、1年生では課題に問題があったかもしれない。
- ・『すきなのに』のその後について、題材を自分たちで決めるなどの方法があるのではないか。（発展課題）

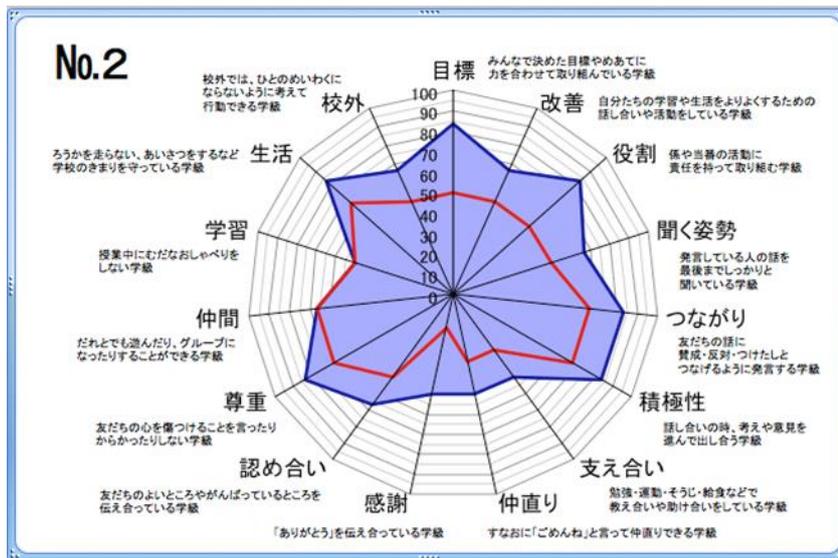
## 1 2 参考資料

### 【学級力向上プロジェクト】

参考資料：

『学級力向上プロジェクト1』「こんなクラスにしたい！」を子どもが実現する方法 小・中学校編  
田中博之編著 金子書房

※この学級力レーダーチャートは、作成例です(実際のデータとは異なります)。



学級力アンケート結果から、学級力レーダーチャートを作成し、学級力に関する子どもの実態を分析した。学級力とは、『学び合う仲間としての学級をよりよくするために、子ども達が常に支え合って目標にチャレンジし、友達との豊かな対話を創造して、規律を守り安心できる環境のもとで協調的な関係を創り出そうとする力』のことを指す。

## 中学年ブロック

### 学級活動 「遊び大会をしよう」

(第3学年学級活動 ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

#### 【この授業を作る上で大切にしたいこと】

##### ① 授業の時期

学級作りが少し進んだ1学期後半から計画的に行うことで、子どもの相互関係や、他者理解を促すことができると考える。また、学期に1回以上行うことで積み重ねができ、活動の価値が上がると思う。また、高学年で縦割り班活動のリーダーなどになったときにこの経験が生かされると考える。

##### ② 遊びの内容について

教師が身近な遊びを提案する→子ども達が何の遊びがふさわしいかを考える

という流れのように、少しずつ段階を上げていく必要がある。

※実際、事前検討で話し合った5つの遊びを行ったクラス、事前検討で話し合った遊びと子どもたちからの提案で5つの遊びを行ったクラスがあった。このことから、学級の状態や発達段階に合わせた選択が可能である。今回、子どもが日常的に行っている遊びは、今後の遊びに生かせると考え、ドッジボールを提案した。しかし、「当たるのが苦手だ。」というその遊びの本質を覆す意見も出た。その遊びのもつ楽しさでもある部分へのルールの工夫についてはかなり難易度が高かった。

今回話し合った遊び	選んだポイント
どろけい    ドッジボール 百人一首    かくれおに だるまさんがころんだ	○ルールの工夫がしやすい ○偶然性がある ○同じくらいのレベルで遊べる ○遊んだ経験ある ×スピードを競う
*学級の状態や発達段階に 合わせた選択が可能である。	

##### ③ 遊びのルールを考えるグループ編成について

A：子どもの希望により編成する

B：生活班など希望とは関係ない状態で編成する

事前授業も含めて、どちらのパターンも行った。学級の実態もあるが、『楽しめない理由』から『ルールを工夫する』という視点での話し合いが必要なため、その遊びが好きではない、苦手な子どもがグループに所属することが話し合いをする上で大切である。

話し合いの様子から

#### ④ 「この遊びのここが苦手だ。」と表明することの価値について

本時では、この苦手だということの話し合いが盛り上がっていた。苦手な子どもが意見を伝えるということがとても大切だと改めて感じさせる場面であった。他者理解という視点においても大変重要な点であろう。

本授業では、ここでの話し合いの盛り上がりにより、時間的に後半の全体共有の時間が減ってしまったところもあった。

改善としては、この意見を伝え合う時間を前時までに丁寧に行い、ある程度共有しておく。書いたものは掲示をするなどして学級全体で共有をしておく。その上でそれらの意見を遊びごとにまとめ、その遊びを考えるグループが把握しておく。ということが考えられる。

このような学習活動にすることで、『遊びの工夫』ということに話し合いの焦点をしぼることができると思う。

#### ⑤ 遊びの工夫を考えた子どもが、遊びを観察する（一緒に遊ばない）ことについて

考えたルールで遊んで、「本当に楽しめているか。」「ルールが機能しているか。」という視点で観察することは、子どもの振り返りや、遊びの改善に生きていた。

#### ⑥ 話し合いのツールについて

本時では、ホワイトボードを活用した。事前授業の学級では、画用紙と付箋紙を活用した。どちらのツールも話し合いに有効である。しかし、ツール自体に慣れていないということが必要である。画用紙と付箋紙の良いところは、消えずに残ること、付箋の移動により考えを整理分析しやすいことなどである。ホワイトボードの利点は、学級全体の共有がしやすいこと、書いたり消したりすることの負担が少ないことなどである。いずれのツールも一長一短があるが、学級の状態に合わせて選択していくとよいと思う。

上記の①～⑥までの授業のポイントについては、指導案上でどこに対応しているのかを網掛けをしています。中学年4クラスが、クラスの実態に合わせて変えて行った部分などもありました。事後の振り返りがさらにこの授業に様々な選択が可能であることを、私たちに教えてくれました。

この指導案をもとに授業をして行く上での一助となれば幸いです。

## 第3学年 学級活動（1） 学習指導案

### 研究主題

共に学び、共に成長し、自他を尊重してかしこく生きる子どもの育成  
～交流及び共同学習の確立を目指して～

### 1 議題 「遊び大会をしよう」

（ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決）

### 2 議題について

（1）子どもの実態（省略）

（2）議題設定の理由

本議題は、子どもの大好きな遊びを通して、『どんなやり方にすればみんなが楽しめる遊びになるか』ということを考えるようにするものである。休み時間や放課後にドッジボールや百人一首で遊ぶ中で、「今度は学級のみんなで楽しめる遊び大会をしたい。」という思いが高まり、議題として選定された。みんなが楽しめるということを通して自分や友達のことを深く知るとともに、学級への所属感を高めていく。遊び大会を計画し、実践することを通して協力することの大切さを味わうことができるようにする。また、『みんなが楽しめるため、友達のことをもっとよく知るためにどんな工夫をするか』『役割分担をどうするか』という点について、互いの意見を尊重し合いながら協力して計画を立て、実践できるように指導していく。遊び大会を通して互いのよさに気付き、協力してよりよい人間関係を築くとともに、自分たちの力でよりよい学級生活をつくっていかうとする自治的能力を育てていきたい。

### 3 評価規準

学級活動（1） 「学級や学校における生活づくりへの参画」

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること。

観点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的によりよい生活や人間関係を築こうとする態度
評価規準	学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協力して実践している。	学級や学校における人間関係をよりよくし、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとしている。

#### 4 研究主題にせまる手立て

##### (1) みんなが楽しめるという意識を常にもてるようにする工夫

子どもが自分達の考えている遊びで、特別支援学級「まつのみ」の友達は楽しいか？苦手な子はどんな遊び方にすれば楽しいか？同時に、その遊びが得意な子がつまらなくなるようにするには、どうしたらよいか？これらを考えられるようにするために、友達にインタビューをしていろいろな意見を集めることにした。このことが研究主題にある自他を尊重することへとつながるのではないかと考えた。特別支援学級「まつのみ」の子どもにもインタビューをし、子ども達が通常の学級の友達だけでなく、交流している特別支援学級「まつのみ」の友達の事も常に考えるようにする。

##### (2) 選ぶ遊びの工夫

みんなが楽しめる前提として、通常の学級の子どもや特別支援学級「まつのみ」の子どもの身体的能力等を考え、遊びをいくつかに限定した。その上で事前にグループや全体で話し合っ、どんな遊びをするか決定する際に、みんなが遊び方を知っているもの、できるだけ工夫ができるものを選択するようにした。話し合いによって友達の事を考えやすくしたことで、自分はどうしたら楽しいか（自己理解）、友達はどうしたら楽しいか（他者理解）を理解することができると考えた。

特別支援学級「まつのみ」の子どもが話し合いの際に自分がどうやって参加していいかわからず、何も意見が出せないということがないように、話し合いながら、ホワイトボードに整理し、内容が目で見える形にしていく。また全員の意見をボードに書き、必ず意見を聞くようにする。

##### (3) いろいろな友達のことを考えられる。

子ども達は、みんなが楽しめるということを考えることで、特別支援学級「まつのみ」の子どもの思い、通常の学級の友達の思いが様々あることに気付くことができる。さらに、誰もが楽しくなるためには、みんながどこかで折り合いを付けることが大切だという合意形成の必要性に気付き、自他を尊重して社会でかしく生きることにつながるのではないかと考えた。

##### (4) 遊びと振り返りを繰り返す

ルールの工夫を考えたグループは、みんなが遊んでいる様子を観察する。それらを振り返り、「遊ぶ→振り返る→考える→遊ぶ」を繰り返すことでよりよく遊びを作る経験をする。また、楽しく遊ぶための工夫が、考えたことと実際の動きとどのように違ったり、同じだったりするのかを客観的に考える視点をもたせるようにする。特別支援学級「まつのみ」の子どもも遊びを運営するグループに所属し、同じように振り返り、自分以外の友達も楽しく遊ぶにはどんな工夫をすればいいか考えられるようにする。振り返った結果もボードにまとめ、グループだけではなく全体が見て分かるようにする。

## 5 事前の活動（本時に至るまでの活動の流れ）

	子どもの活動	指導上の留意点	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までクラスで遊びをして楽しい経験やあまり楽しくなかった経験がなかったか発表する。</li> <li>・議題を決定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうして楽しくなかったのかも考えるようにする。</li> <li>・みんなで楽しめるということを念頭において考えるようにする。</li> <li>・議題を決定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活をよりよくするために、進んで議題について考えている。（観察）</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな遊びにするかグループで話し合う。</li> <li>・グループの意見を学級全体に発表する。</li> <li>・学級で遊びを5つ選ぶ。</li> <li>・5つの遊びの担当や役割を分担する。</li> <li>・特別支援学級「まつのみ」の子どもも分担に加わる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理由も考えるようにする。</li> <li>・話し合いの結果をホワイトボードに記入し、掲示できるようにする。</li> <li>・みんなが知っている遊びや工夫できるものを選ぶ。</li> <li>・担当はその遊びが楽しいか観察するので、遊びに参加しないことを確認するようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが楽しめるということを意識しながら話し合いに参加している。（観察）</li> <li>・意見を分かりやすく発表している。（観察）</li> <li>・分かりやすくまとめている。（ホワイトボード）</li> </ul>

## 6 本時の指導

### (1) 目標

学校生活をより楽しく豊かなものにするため、みんなが楽しめる遊び大会のルールや遊び方にどんな工夫をすればいいか話し合い、友達の思いを察しながら遊び大会の計画を考えることができる。

### (2) 本時の展開

時間	○学習活動と予想される反応 (T: 教師の発問 C: 予想される子どもの反応)	◇指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 5分	1 事前の活動の振り返り  みんなが楽しめる遊び大会をしよう。	・みんなが楽しめるという意識を常にもつようにする。	
展開 30分	2 議題の確認		
	3 めあての確認  【めあて】 みんなが楽しめる遊び大会にするために、ルールや遊び方を工夫しよう。		
	4 話し合いのポイントを確認  【ポイント】 ・誰もが楽しめるようにする。 ・自分の意見を言う。 ・友だちの考えを大切にする。	・話し合いのポイントは掲示しておく。	本時では苦手なことを生き生きと出し合う姿が見られた。
	5 話し合う内容の説明を聞く T: 苦手な友達も、得意な友達もみんなが楽しむためにはどんなルールや遊び方をすればいいかそれぞれのグループで話し合う。	・それぞれの遊びで苦手な友達がどうしたら楽しめるかを考えるようにする。	・みんなが楽しめるような工夫を発表している。(観察)
	6 遊びのグループごとに話し合う。 グループ ① どろけい ② ドッジボール ③ 百人一首 ④ かくれおに ⑤ だるまさんがころんだ	・話し合いながら、ホワイトボードに書いていくようにする。 ・実際に遊んだらどうなのかもイメージするようにする。 ・話し合いの様子を見て、大切なところは全体指導する。	・どのような工夫がよいかを積極的に考えようとしている。(観察)

ま と め 10 分	7 話し合いの結果を全体に発表し、全体 で話し合う。 8 今後の見通しの確認 9 振り返りをする。 ・振り返りカードを書く。 ・授業の感想を発表する。		・友達と交流するこ とができる。(観察) ・めあてが達成できた か。
------------------------	--	--	---

(3) 板書計画

議題 「みんなが楽しめる遊び大会をしよう」	どろけい	だるまさんがころんだ	
<b>【めあて】</b> みんなが楽しめる遊び大会にするた めに、ルールや遊び方をくふうしよう。	かくれおに	百人一首	ドッジボール
<b>【ポイント】</b> ・誰もが楽しめるようにする。 ・自分の意見を言う。 ・友だちの考えを大切にす。	<b>【ふりかえり】</b>		

7 事後の活動

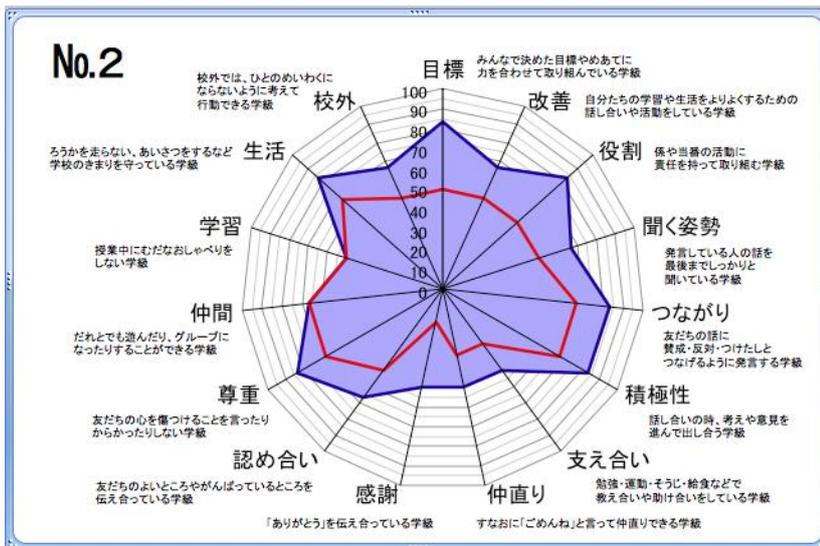
	子どもの活動	指導上の留意点	評価方法
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊び大会をする。</li> <li>ドッジボール</li> <li>どろけい</li> <li>係の子どもは振り返りをす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>係はそれぞれの役割で遊びを運営するようにする。</li> <li>係はみんなが楽しめているかという観点で観察するようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合意形成したことをもとにみんなで協力し、進んで遊びの準備をしているか。(観察)</li> </ul>
休み時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びをする。</li> <li>かくれおに</li> <li>百人一首</li> <li>だるまさんがころんだ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>係はそれぞれの役割で遊びを運営するようにする。</li> <li>係はみんなが楽しめているかという観点で観察するようにする。←ここも大切！</li> <li>協力したり、工夫したりしている子どもをほめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びの目的を考え、めあてを意識しながら、友達と協力して実践している。(振り返りカード)</li> <li><u>※書いて振り返りをするこはとてもよかった。</u></li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びの係担当の子どもは振り返りをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この遊び大会の学習活動を生かして日常的な遊びを支援していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びの目的を考え、めあてを意識しながら、振り返り、今後の日常的な遊びに生かそうとしている。</li> </ul>

## 8 参考資料

『学級力向上プロジェクト1』「こんなクラスにしたい！」を子どもが実現する方法 小・中学校編  
 田中博之編著 金子書房

### 資料1 子どもの実態とめざす子ども像

※この学級力レーダーチャートは、作成例です(実際のデータとは異なります)。



学級力アンケート結果から、学級力レーダーチャートを作成し、学級力に関する子どもの実態を分析した。学級力とは、『学び合う仲間としての学級をよりよくするために、子どもたちが常に支え合って目標にチャレンジし、友だちとの豊かな対話を創造して、規律を守り安心できる環境のもとで協調的な関係を創り出そうとする力』のことを指す。



#### 目指す学級集団

- 自分の考え方も大切にし、相手の意見も聞いて、互いに話し合って合意する点を見だし、共に楽しく生活したり、協同して作業をしたりできる学級を目指す。
- 自分の意見も友達の見解も平等に考えられ、常に自分以外の人のことを尊重して接することができる子どもを育てる。



#### 手立て・配慮事項

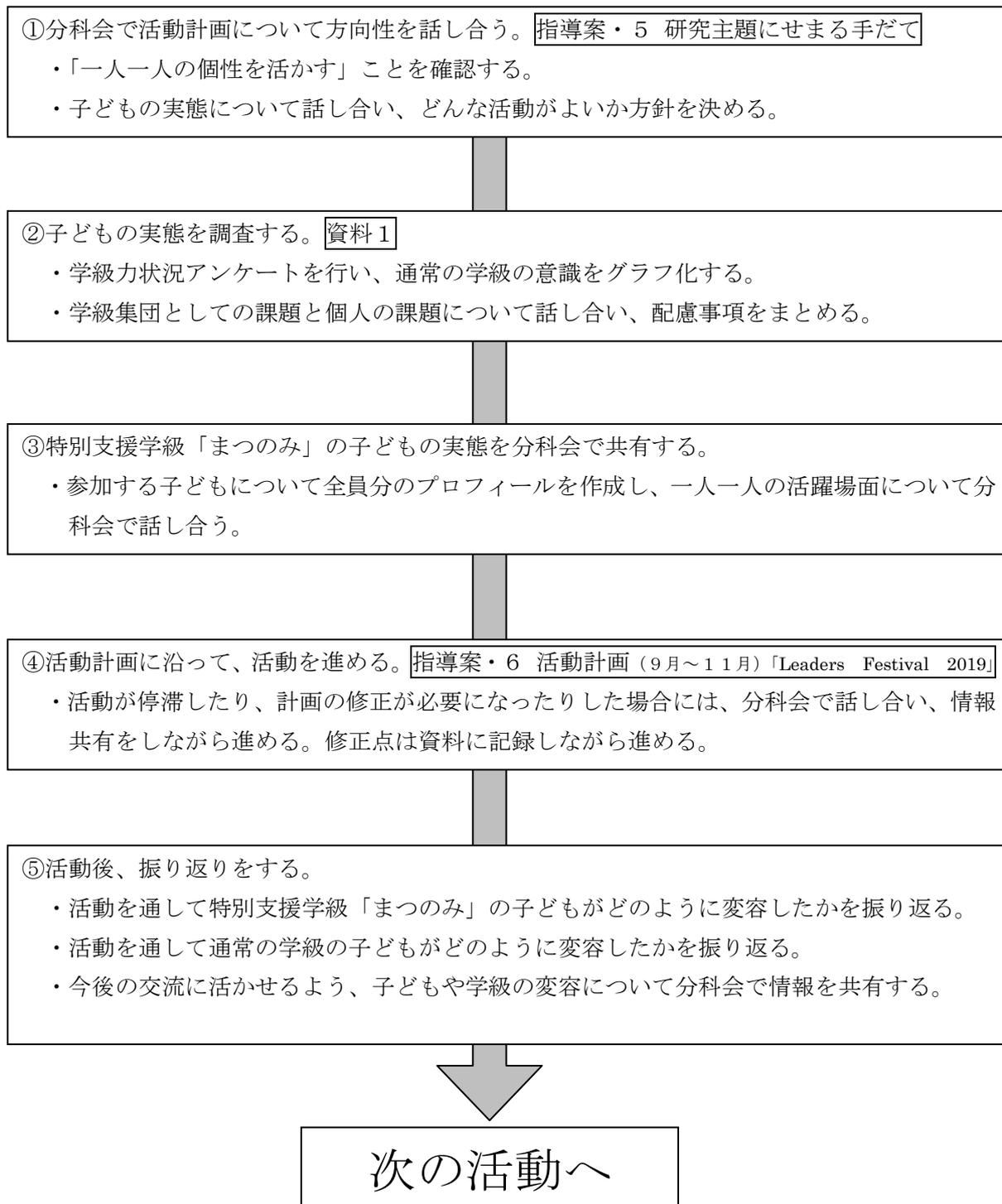
- ・自分以外のいろいろな子ども達とも適切に関わることができるように、学級活動だけでなく、学校生活の様々な場面で交流したり、協同して行ったりする機会を多くする。その中で、子どもが気付いた問題点やトラブルになった原因を追及し、どうすればいいかを考えられるように、必ず振り返りを行う。
- ・「みんなが楽しめる～」や「自分もみんなもおもしろい～」のような活動を行う機会を設け、みんなでやるために大切なことを考えながら、少しずつ実践できるようにしていく。
- ・相手を大切にしていると思われるような優しく正しい言葉遣いができるようにする。

## 高学年ブロック

### 「Leaders Festival 2019 をしよう」・交流に向けての取り組み

高学年分科会では、通常の学級と特別支援学級「まつのみ」の担任、特別支援教室「キラリ」の教師が話し合い、子どもの情報を共有してから、本単元を計画した。

その際一番大切にしたのは、一人一人の子どもが、活動の中でそれぞれの個性を活かす場にあることである。そのために、次のような流れで指導・支援を進めた。



資料 1

子どもの実態とめざす子ども像

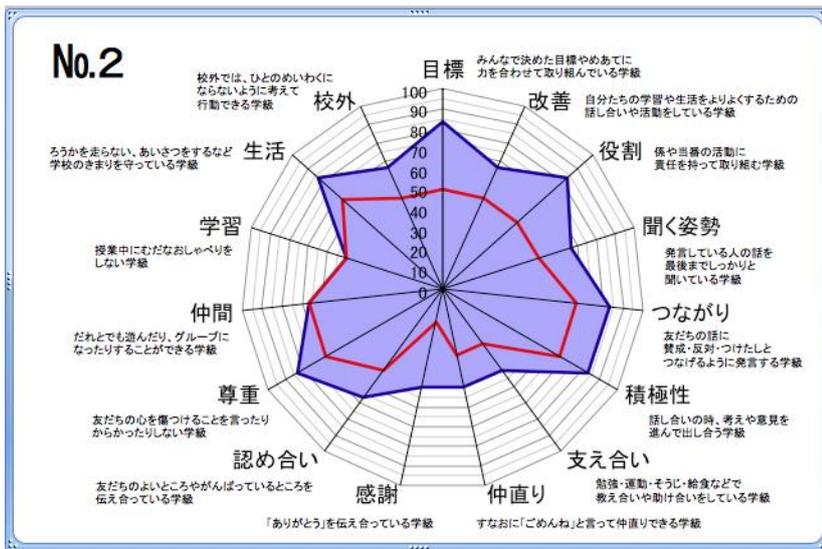
【学級力アンケート】【学級力レーダーチャート】

参考資料：

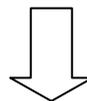
『学級力向上プロジェクト1』「こんなクラスにしたい！」を子どもが実現する方法 小・中学校編

田中博之編著 金子書房

※この学級力レーダーチャートは、作成例です(実際のデータとは異なります)。

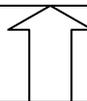


学級力アンケート結果から、学級力レーダーチャートを作成し、学級力に関する子どもの実態を分析した。学級力とは、『学び合う仲間としての学級をよりよくするために、子どもたちが常に支え合って目標にチャレンジし、友だちとの豊かな対話を創造して、規律を守り安心できる環境のもとで協調的な関係を創り出そうとする力』のことを指す。



**目指す学級集団**

- 自分達で決めたことを自分達の手で成し遂げようとする集団。
- どの子どもにも自分の居場所があり、それぞれのよさを認め合い、助け合う集団。
- 一人一人が自信をもち、よさを発揮しようとする集団。



**配慮事項・手だて**

- ・リーダーとして活躍する、グループの一員として活動を支えるなど、子どもの個性に合わせた役割を意識させる。
- ・特別支援教室「キラリ」を利用する子どもの集団への関わり方は、特別支援教室「キラリ」の教師と相談して手だてを考える。
- ・人のために頑張っていたり、譲ったりなど、周りのことを考えて活動している姿を見取り、その都度、子どもに伝えて価値付ける。

研究主題 共に学び、共に成長し、自他を尊重してかしこく生きる子どもの育成 ～交流及び共同学習の確立を目指して～
---

1 議題「Leaders Festival 2019 の出し物を3つ決めよう」

2 子どもの実態と議題について

(1) 子どもの実態（省略）

(2) 議題設定の理由

本時の活動は、学級活動（1）における「学級や学校における生活づくりへの参画」のア「学級や学校における生活上の諸問題の解決」として設定した。

昨年度から始まった交流及び共同学習により特別支援学級「まつのみ」の子どもが、通常の学級の子どもと関わる機会が設けられた。今年度も継続され、5年生は八ヶ岳自然教室や学級活動を通しての、6年生は日光移動教室や社会科、理科、家庭科などを通しての交流及び共同学習を実施してきた。2学期には運動会、3学期には音楽会が交流及び共同学習として予定されている。さらに、高学年として

・「学級、学年を超えた子ども同士の団結を深めたり高めたりすること」

・「松中小学校全体を盛り上げていくこと」

をねらいとした。それを達成させるため、本活動【Leaders Festival 2019】を企画した。本活動を通し、

【研究主題との関連】※「5 研究主題にせまる手立て」を参照

①「自分のもち味を自覚し伝えること」（自己理解）

②「子ども同士のよさを知る機会を作ること」（他者理解）

③「異学年交流すること」（交流及び共同学習）

を子どもに経験させることで、子どもが自分に自信をもち、もち味のよさを伸ばしていく活動をねらいとした。

3 評価規準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

(評価規準は国立教育政策研究所より)

4 本時に関わる活動の経緯

	5年	6年
1	「まつのみ」学級担任による出前授業：特別支援学級「まつのみ」の子どもから学級の紹介と遊び（総合）	日光移動教室で係活動に取り組む
2	八ヶ岳自然教室オリエンテーション（総合）	社会科、理科、家庭科の教科学習に参加

3	八ヶ岳自然教室・係活動（総合）3h キャンプファイヤー・フォークダンス練習（体育）4h	たてわり班活動で計画実行
4	八ヶ岳自然教室	学級活動（お楽しみ会）に特別支援学級「まつのみ」の子どもが参加
5	「お楽しみ会の遊びを3つ決めよう」（学級会）	
6	学級力向上アンケート 実施	
7	第1回お楽しみ会	

5 研究主題にせまる手だて

①「自分のもち味を自覚し伝えること」（自己理解）を達成するために

⇒「自分の取り扱い説明書を作成すること」とした。

各グループで自分の役割分担する前に、自分の性格を自己診断シートに記入した。それを基にして、役割分担の話し合いに、自信をもって臨めるようにした。

②「子ども同士のよさを知る機会を作ること」（他者理解）を達成するために

⇒「子どものよさを情報交換し、企画に盛り込むこと」とした

教師が活動計画を立てる際に、特別支援学級「まつのみ」の子どもの得意・不得意、通常の学級の子ども得意・不得意について情報交換し、活動の中でそれぞれの個性をどう活かすか話し合い、指導計画に取り入れた。また子どもに対しても、「自分のよさや得意なことを知り人に伝えよう」「自分のもち味を活かして、みんなに貢献しよう」と呼びかけ、「Leaders Festival」の大きなめあてとした。

③「異学年交流すること」（交流及び共同学習）を達成するために

⇒「だれもが主体的に、人のために尽くす活動」とした。

宿泊学習では、特別支援学級「まつのみ」の子どもも通常の学級の子どもも、自分の役割を自覚して全員が主体的に活動していたことから、2学期にも、子どもが主体的に活動する場を設定することにした。運動会でも交流及び共同学習活動は行うが、どうしても教師主導で活動する部分が多くなる。そこで、学級活動としてLeaders Festivalを行い、子どもが主体となって計画から進めていくことにした。子ども自身が目標を達成するために、互いのもち味を生かしながら協力し合う取り組みにしていく。また、低学年への発信も行い、学校のリーダーとして下級生のためにできることを考える要素も盛り込んだ。招待した通常の学級や特別支援学級「まつのみ」の下級生との関わりも含めて、交流活動を活性化したいと考えた。

6 活動計画（9月～11月）「Leaders Festival 2019」

時	教科	学習形態	○主な活動	・備考 ★個を生かす手だて	研究主題との関連
1	総合的な学習の時間	5・6年合同	<p>【2学年合同オリエンテーション】</p> <p>○活動のめあてについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなを笑顔にする会を企画し、下級生も招待して松中小学校を盛り上げよう。</li> <li>・自分のよさを生かして、役割を果たそう。</li> </ul> <p>○出し物の条件を知り、例示されたものから、どんな出し物ができそうかイメージをもつ。</p>	<p>・オリエンテーションの後に各学級でやりたいことアンケートをとる。</p> <p>★出し物を例示し、自分がどのような出し物をしたいか全員がイメージできるようにする。</p>	
2	<b>本時</b> 学級活動	各学級	<p>「学級の出し物を3つ決めよう」（学級会）</p> <p>○アンケートで多かった出し物の中から学級の出し物を3つ以内にしぼる。</p> <p>○どの店を出すか分担を決める。</p>	<p>★話し合う前にどんな出し物が喜んでもらえるか、また、自分はどんな出し物ならよさを活かして参加できるかをワークシートに書かせておく。</p> <p>・分担を決める時間がないときは、次時に分担を決める。</p>	
3	学級活動	各学級	○自分の取り扱い説明書を作成する。	・自己理解の一助にする。	①「自分のもち味を自覚し伝えること」（自己理解）
4	総合的な学習の時間	各学級 (3グループごと)	<p>○出し物の計画を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの中での分担を決める。</li> <li>・準備に何が必要かを話し合い、活動計画を立てる。</li> </ul>	★互いの得意なことを考えながら分担を決めるよう助言しつつ見守る。	<p>①「自分のもち味を自覚し伝えること」（自己理解）</p> <p>②「子ども同士のよさを知る機会を作ること」（他者理解）</p> <p>③「異学年交流すること」（交流及び共同学習）</p>
5 ～ 7	総合的な学習の時間	各学級 (3グループごと)	<p>○出し物の準備をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な物を作る。</li> <li>・ルールを決める。</li> <li>・リハーサルをする。</li> </ul>	<p>・3時間では足りない部分は、休み時間を利用して準備を進める。</p> <p>★それぞれ役割を果たすために頑張っている姿を見取り、価値付け、子どもに伝える。</p>	<p>①「自分のもち味を自覚し伝えること」（自己理解）</p> <p>②「子ども同士のよさを知る機会を作ること」（他者理解）</p> <p>③「異学年交流すること」（交流及び共同学習）</p>
8 ～ 9	行事	5・6年合同 1・2年生を招待	<p>「Leaders Festival 2019」</p> <p>○お店を出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つのお店が、前半グループ・後半グループに分かれる。</li> </ul>	★お客さんとして来る友達や下級生との関わりの中で力を発揮している姿を見取り、価値付け、子どもに伝える。	<p>②「子ども同士のよさを知る機会を作ること」（他者理解）</p> <p>③「異学年交流すること」（交流及び共同学習）</p>
10	学級活動	各学級	○振り返りカードに今回の活動についての振り返りを書く。	★振り返りカードで書いたことを発表させる。教師が見取った子どものよいところを伝え、今回の活動の価値を全体で共有する。	

7 本時の活動

(1) 本時の目標

自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりしながら、提案理由に沿ってみんなで納得する意見をまとめていくことができる。

(2) 本時の展開

議題	「Leaders Festival 2019」の出し物を3つ決めよう				
提案理由	これからの松中小を盛り上げるために、高学年みんなが協力して、上級生も下級生も一緒に楽しめる会をしよう。				
話し合いのめあて	・自分の意見と友達の意見を比べて聞き、自分の意見を発表しよう。				
時間	学習活動と予想される反応	T1の支援	T2の支援	T3の支援	評価規準（評価方法）
5分	1 議題、提案理由、話し合いのめあてなどを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業前に黒板にも書いておき、本時の活動を視覚的に理解できるようにする。</li> <li>話し合いの際には、議題や提案理由に返ることが大切だということを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあて等の説明の後簡単に内容を確認して分からない時もう一度説明する。</li> <li>予め、話し合いの内容を知らせておく。</li> <li>黒板の文字、話している時に気になったことを言った場合は、状況に応じて受容するか、今は話を聞くことを促すか決めて支援する。</li> <li>めあて等の説明の後、簡単に内容を確認して分からない時もう一度説明する。</li> <li>めあて等の内容を分かりやすいように伝える。</li> <li>めあて等の説明の後、簡単に内容を確認して、分からない時はもう一度説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全クラスを巡回し、困っている子どもがいれば、支援を行う。</li> <li>介助員に対して支援のフォローを行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>議長団の役割を理解している。（観察）</li> </ul>
10分	2 「①3つの遊びを決める」について自分の意見を発表する。 「～が良いと思います。なぜか」というと…だからです。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒板書記が、意見を○で掲示することで、どの提案に対しての意見が多いのかを一目で分かるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えがあるか一緒に確認してから発表させる。</li> <li>話し合いの内容を説明しながら参加させる。</li> <li>反対意見を強く言いだしたとき、今はどうすることがよいのか伝える。</li> <li>自分の意見を主張して相手の意見が聞けない時、その場から離れた場所で話を聞く。</li> <li>自分の考えがあるか一緒に確認する。</li> <li>話し合いの内容を説明しながら参加させる。</li> <li>自分で決められるように選択肢を伝える。</li> <li>常に本人の緊張と不安の状態を見ながら、必要に応じて離れてクールダウンする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>どの出し物がよいかを積極的に考えようとしている。（学級会カード）</li> <li>友達の発表を聞いて、よさを見付けたり自分の考えと比べたりしようとしている。（観察）</li> </ul>
5分	3 反対意見や修正案を出す。 ・「～が不安だから、○○にした方がよいと思います。」 ・「～は大勢でできないと思うので、△の方がよいです。」	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     「○○さんと似ていて」                      「○○さんの意見に賛成で」                      「○○さんと少し違って」                      などの言葉を提示して、子どもの発表につなげられるようにする。                 </div>			
5分程度	4 3つの出し物を決定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>賛成意見と反対意見の○の数が偏っていれば、そのまま決定する。まとまらないようなら、多数決もできることを司会に伝える。</li> </ul>			
10分	5 「②担当を決める」について話し合い、出し物の担当の他に仕事はないか確認する。				
	6 自分がやりたい担当を決め、ネームカードを貼る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が貢献できそうなものはどれかを考えるよう助言する。</li> </ul>			
10分	6 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてにそって振り返りをさせるようにする。</li> </ul>		後日 （授業後に全体の様子を各担任に共有していく。）	

## 特別支援教室「キラリ」の教師による出前授業

### 第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

#### 研究主題

共に学び、共に成長し、自他を尊重してかしこく生きる子どもの育成  
～交流及び共同学習の確立を目指して～

### 『理解教育～キラリの学習を体験しよう！～』

#### 1 指導目標

自分と他者を比較し、多様な考えや価値観について考えることができる。

#### 2 評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	人によってさまざまな考えや感じ方があることを理解している。	自分の思いや考え、感じ方を自分なりに表現しようとしている。	他者とのかかわりの中で、自分と他者を比較し、共通点や相違点を見つけようとしている。

#### 3 指導にあたって

##### 子ども観

省略

##### 指導観

本学習は、『共に学び、共に成長し、自他を尊重してかしこく生きる子どもの育成～交流及び共同学習の確立を目指して～』という研究主題を受けて、第3学年としての、『他者を理解して思いやることのできる力』を育てるため、松中小の理解教育の一環として設定した。

本学習は、『こんなときどんな気持ちになる？』に合った自分の感情を、『うれしい』『楽しい』『安心』『イライラ』『不安』『悲しい』の6色で表し、グループで発表し合い、自分と似ているところや異なるところを見つける活動である。ファシリテーターや指導者による声かけ・意見交流の時間の確保を行い、子ども達が、『いろんな人がいて良い、それを認め合うことが素晴らしいことだ。』と考えることができるようにする。

#### 4 研究主題にせまるための手立て

##### ①導入の工夫

特別支援教室「キラリ」の利用の有無に関わらず、子ども達が、特別支援教室「キラリ」に興味を

もつことができるように、教師の名前や人数、学習内容について簡単に紹介する。

## ②指導体制の工夫

特別支援教室「キラリ」の教師がT1、学級担任がT2、その他の特別支援教室「キラリ」の教師及び中学年ブロックの教師をT3とする。

導入から展開まではT1が進め、授業のまとめはT2の学級担任が担当する。授業のまとめをT2の学級担任が担当することは、学級としての『他者を理解して思いやる心』の育成につながると考えた。

## ③グループ活動を充実させるための工夫

展開の前段で、『みんなが気持ちよく意見を言うためのコツ』を提示することで、『いろいろな人がいて良い』『他者を理解して思いやりの気持ちをもつ』という意識をもたせる。『気持ち調べ』では、グループ発表の際に、他者と自分の気持ちの比較がしやすくなるように、個々の考えをもたせてから、グループ内で色を選んだ理由や色の違いについて話し合わせる。グループの話し合い活動においては、各班にファシリテーター役の教師を配置し、話し合いが円滑に進むように助言する。

テーマに関しては、①子ども達が考えやすいであろう『天気』を取り上げ、『うれしい』と『悲しい』の2択にすることで活動を理解させる。②その後、さまざまな気持ちの表現が予想される『こんなときどんな気持ちになる?』を取り上げ、選択肢を6つ増やすことで、子ども達が多様な考えや価値観に触れられるようにする。

## ④発達段階や学年の現状に合った系統的な指導を行うための工夫

子どもの発達段階や学年の実態に合わせた系統的な指導を行うために、各学年・特別支援学級「まつのみ」の担任と話し合った。指導目標を以下のように設定した。

		指導目標	
低学年	1 年生	自己理解 (自己肯定感を高める)	互いによいところを伝え合うことで、「自分にもよいところがあるかもしれない。」ということを感じることができる。
	2 年生		自分自身を好きになるきっかけづくりとして、互いによいところを見つけ、伝え合うことで、「みんなそれぞれよいところがある。」ということを実感することができる。
中学年	3 年生	他者理解 (多様性を受け入れる)	自分と他者を比較し、共通点や相違点を見付けることで、多様性について触れることができる。
	4 年生		自分と他者を比較し、共通点や相違点を見付けることで、多様性を受け入れることができる。
高学年	5 年生	交流及び共同学習 (自分を見つめ直す)	話し合い活動を通して、互いの苦手なことを知り、「みんなそれぞれ苦手なことがある。」ということを実感することができる。
	6 年生		話し合い活動を通して、自分なりの苦手を克服する方法を考えることができる。
特別支援 学級 「まつのみ」 (本活動の みの目標)	1 組	交流及び共同学習 (特別支援教室「キラリ」を知る)	特別支援教室「キラリ」の教師との交流を通して、自分たちと同じように、少人数で学習をしている場所(特別支援教室「キラリ」)があることを知ることができる。
	2 組	自己理解 (自分を知る)	互いによいところや得意なことを伝え合うことで、自分はこんな人ということを知ることができる。

## 5 学習の流れ

### (1) 指導の目標

自分と他者を比較し、多様な考えや価値観について考えることができる。

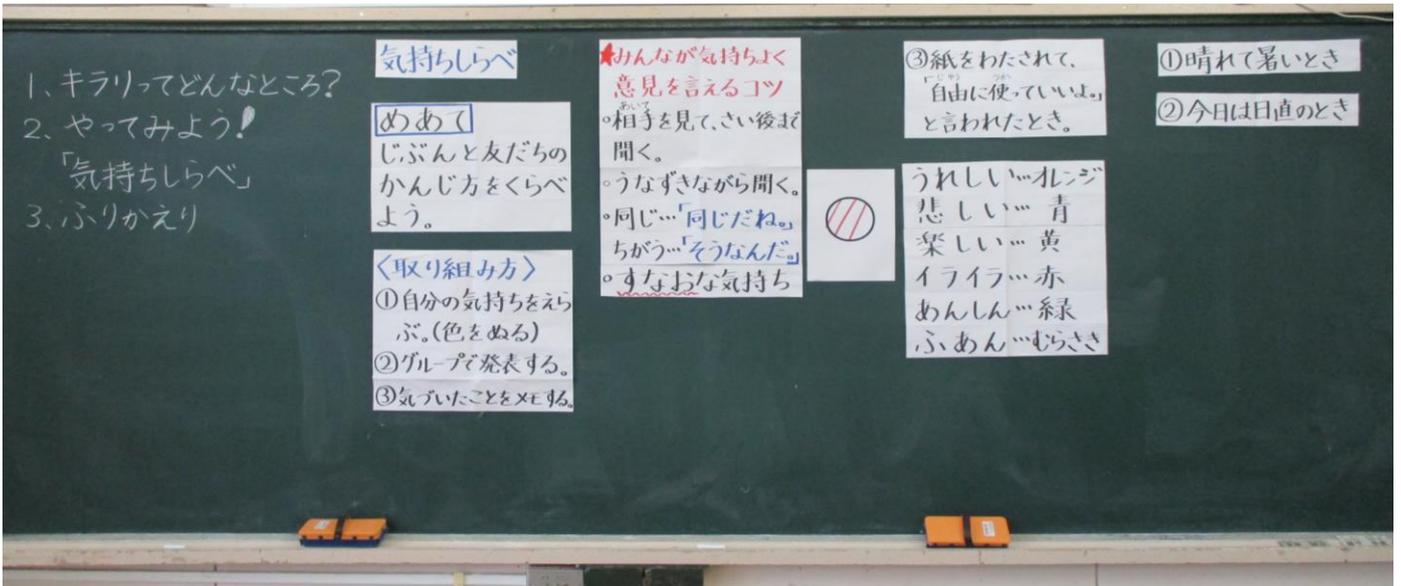
### (2) 展開

	学習内容	○指導上の留意点 ◆評価（評価方法）		
		T 1	T 2	T 3
導 入	〈挨拶をする〉 〈自己紹介を聞く〉 〈今日の学習の流れを知る〉	○学習の流れを板書する。		
展 開	〈特別支援教室「キラリ」について知る〉 1 キラリってどんなところ？ ・どんな先生がいるの？ ・どんな勉強をしているの？  〈多様な考えや価値観を考える〉 2 やってみよう！ 『気持ち調べ』 (1) 学習内容を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             テーマに合う気持ち(色)を考える学習です。           </div> (2) めあてを知る。 <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             自分と友達を感じ方を比べよう。           </div> (3) 取り組み方を知る。 ①自分の気持ちを選ぶ。(色を塗る。) ②グループで発表する。 ③気付いたことをメモする。	○パワーポイントを使って説明する。  ○説明タイム・質問タイムの表示を出し、話していい時かどうか分かりやすくする。  ○めあてを掲示する。		
			<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #fce4ec; margin: 10px 0;">             各班に助言をすることで、子どもの考えを引き出したり、考えを言語化させたりして、ワークシートに考えや思いを表現することができた！           </div>	
		○質問の時間を設ける。 ○学習の取り組み方を掲示する。		○グループに入り、 <u>ファシリテーター</u> として参加する。

<p>(4) やってみる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①晴れていて暑いとき ②今日は日直のとき ③紙を渡されて「自由に使っていますよ。」と言われたとき</p> </div> <div style="background-color: yellow; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><b>4年生での実践に向けて</b> 設問数が多かったという課題を改善し、子ども同士の関わりの時間を確保することとした。</p> </div> <p>(5) 気付いたことを書く。</p> <p>(6) T1 の話を聞く。</p>	<p>○みんなが気持ちよく意見を言えるためのコツを伝え、掲示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の話は、相手を見て最後まで聞く。</li> <li>・ うなずきながら聞く。</li> <li>・ 自分と同じだったら「同じだね。」、自分の意見と違ったら「そうなんだ。」と伝える。</li> <li>・ 素直な気持ちを話す。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆自分の思いや考え、感じ方を自分なりに表現しようとしている。(発言・行動観察・ワークシート)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆他者とのかかわりの中で、他者と自分を比較し、共通点や相違点を見付けようとしている。(発言・行動観察・ワークシート)</p> </div> <p>○同じ質問でも人によっていろいろな感じ方があることや特別支援教室「キラリ」の学習内容(自分の気持ちや、みんなが気持ちよく過ごすための方法を考える)に触れる。</p>		
<p>振り 返り と ま と め</p> <p>〈学習の振り返り〉</p> <p>(1) 振り返りを書く。 (2) 振り返りを発表する。</p> <p>〈学級での活かした方について考える〉</p> <p>(1) <u>T2(学級担任)</u>の話を聞く。</p> <p>〈挨拶をする〉</p>	<p>○何人かの子どもに、授業の振り返りを発表させ、ワークシート記入のイメージをもたせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○なかなか書くことができない子どもには、振り返りを書くポイントや例を提示する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○子どもの振り返りを基にしてまとめを行う。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆人によってさまざまな考えや感じ方があることを理解している。(発言・行動観察・ワークシート)</p> </div> <p>○子ども達の見解に触れながら、人によっていろいろな考えや感じ方があること及びその良さを伝える。</p>		

学級担任が授業のまとめをすることで、実態に即した、多様性や自己理解についての話をすることができた!

6 板書計画



# 気持ちしらべ

3年 組 ( )

	じぶんの気持ち	気づいたこと
①	○ ○ ○	<div data-bbox="790 539 1342 663" style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f0e6ff;">                     入り混じる複数の感情を表現できるように、○を3つ用意。                 </div>
②	○ ○ ○	
③	○ ○ ○	

今日のふりかえり

---

---

---

---

---

---

---

---

## 8 子ども達の感想

- ・意外とみんな違う気持ちでびっくりした。
- ・みんなの意見を聞いて良かった。
- ・みんな違って、人それぞれ違うことが分かった。
- ・〇〇さんと似ているんだと分かって嬉しかった。
- ・発表するのは恥ずかしかった。
- ・自分の気持ちを発表するのが、恥ずかしかった。
- ・おもしろかった、もう一度やりたい。
- ・色（気持ち）は同じだったけど、理由が違った。
- ・特別支援教室「キラリ」での学習のことが分かって良かった。

## 9 授業後の子どもの様子

- ・特別支援教室「キラリ」は、巡回指導の体制をとっているため、拠点校に不在のこともあり、子ども達に、教員の顔や名前を認知してもらうことが難しかったが、「キラリの先生だ！」と、話しかけてくれる子どもが増えた。
- ・特別支援教室「キラリ」の教師に対して、話しかけたり、あいさつをしたりする子どもが増え、教師の名前をしっかりと覚える子どももいた。

## 10 参考資料

『100. 気持ち調べ』 教室・家庭でいまずぐ使えるソーシャルスキルトレーニング(2013) P. 128

安住ゆう子・三島節子著 かもがわ出版

## 第3学年の授業の成果と課題

→第4学年での実践にむけて

○両学年で継続して行った、指導の工夫

①特別支援教室キラリ教師の介入(ファシリテーターとして)

②特別支援教室キラリの教師と学級担任との役割分担

特別支援教室キラリの教師：指導内容についての説明

学級担任：授業のまとめ

③ワークシートの工夫

気持ちを色で表す<sup>まる</sup>○を1問につき3つ用意し、入り混じる複数の感情を表現できるようにした。

④ユニバーサルデザインの観点から

ワークシートの1問目は、教師が主導する形で取り組ませ、活動の流れについての理解を促した。よって、2問目からは子どもだけで取り組むことができた。

○第3学年での授業の課題から、第4学年での実践にむけての改善

①意見交流の時間の確保

ワークシート3問の設定では、慌ただしく時間が過ぎてしまったので、工夫が必要となった。

→設問の削減、色を選んだ理由を書く欄を省略

②ワークシートに取り組みやすくする工夫

気持ちを表す色を4色に削減し、自分の気持ちをすぐにはるるようにした。また、『うれしい…オレンジ色』などの説明を、黒板だけでなくワークシートにも記載し、作業しやすくした。

「理解教育～キラリの学習を体験しよう！～」

1 指導の目標

自分と他者を比較し、多様な考えや価値観について考えることができる。

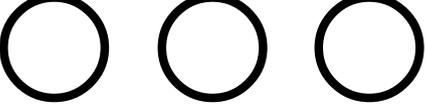
2 展開

	学習内容	○指導上の留意点 ◆評価（評価方法）		
		T 1	T 2	T 3
導 入	〈挨拶をする〉 〈自己紹介を聞く〉 〈今日の学習の流れを知る〉	○学習の流れを板書する。		
展 開	〈特別支援教室「キラリ」について知る〉 1 キラリってどんなところ？ ・どんな先生がいるの？ ・どんな勉強をしているの？ 〈多様な考えや価値観に触れる〉 2 やってみよう！ 『気持ち調べ』 (1) 学習内容を知る。 テーマに合う気持ち(色)を考える学習です。 (2) めあてを知る。 自分と友達を感じ方を比べよう。 (3) 取り組み方を知る。 ①自分の気持ちを選ぶ。(色を塗る。) ②グループで発表する。 ③気付いたことをメモする。	○パワーポイントを使って説明する。  ○説明タイム・質問タイムの表示を出し、話していい時かどうか分かりやすくする。  ○めあてを掲示する。		

	<p>(4) やってみる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">       気持ち調べ①晴れていて暑いとき        気持ち調べ②今日は日直のとき     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffffcc;">       設問を2問に減らしたことで、より、意見の交流が活発になった。     </div> <p>(5) 気付いたことを書く。</p> <p>(6) T1 の話を聞く。</p>	<p>○みんなが気持ちよく意見を言えるためのコツを伝え、掲示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の話は、相手を見て最後まで聞く。</li> <li>・うなずきながら聞く。</li> <li>・自分と同じだったら「同じだね。」、自分の意見と違ったら「そうなんだ。」と伝える。</li> <li>・素直な気持ちを話す。</li> </ul>		
		<p>◆自分の思いや考え、感じ方を自分なりに表現しようとしている。(発言・行動観察・ワークシート)</p>		
		<p>◆他者との関わりの中で、他者と自分を比較し、共通点や相違点を見付けようとしている。(発言・行動観察・ワークシート)</p>	<p>○同じ質問でも人によっていろいろな感じ方があることや、特別支援教室「キラリ」の学習内容(自分の気持ちや、みんなが気持ちよく過ごすための方法を考える)に触れる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e6e6fa; margin: 10px auto; width: fit-content;">       4年生でも、ファシリテーターの参加によって、全員、ワークシートの記入ができた。     </div>	<p>○グループに入り、ファシリテーターとして参加する。</p>
<p>振り返りとまとめ</p>	<p>〈学習の振り返り〉</p> <p>(1) 振り返りを書く。</p> <p>(2) 振り返りを発表する。</p> <p>〈学級での活かし方について考える〉</p> <p>(1) T2 の話を聞く。</p> <p>〈挨拶をする〉</p>	<p>○何人かの子どもに、授業の振り返りを発表させ、ワークシート記入のイメージをもたせる。</p>		
		<p>○なかなか書くことができない子どもには、振り返りを書くポイントや例を提示する。</p>		
		<p>◆人によってさまざまな考え方や感じ方があることを理解している。(発言・行動観察・ワークシート)</p>	<p>○子ども達の見解に触れながら、人によっていろいろな考えや感じ方があること及び、その良さを伝える。</p>	

# 気持ちしらべ

4年 組 ( )

じぶんの気持ち	
①	 うれしい・・・オレンジ あんしん・・・黄色 かなしい・・・青
②	 ふあん・・・緑
気づいたこと	

色が示す気持ち  
について説明を  
記載  
→作業がしやす  
くなった！

設問の削減等  
→充実した話し合いができた！

今日のふりかえり